

# 図書館部報

岡崎市現職研修委員会  
学校図書館部  
平成22年9月22日  
No. 3

おお、図書館が変わった

現職研修委員会学校図書館部部長  
河合中学校 内田 幹也

「おお、図書館が変わった。本の位置が変わった。掲示も変わった。」

2学期初日、9月1日に掃除当番で図書館にやってきた、3年生のA君が発した言葉です。本が大好きなA君は、掃除当番を含めて、よく図書館にやってきます。ですから、図書館の変化がよく分かったのです。

本年度、学校図書館部の市教育研究大会が本校で開催されることになりました。そこで、夏休み中に図書館主任を中心に図書館の整備が行われたのです。

生徒たちの本離れを憂いた前任の校長先生が、「朝の読書タイム」「PTAによる読み聞かせ」「教員による図書紹介」など、生徒の読書への興味・関心を高める取組を始められました。

中学校で「読み聞かせ」を行っているのには驚きました。3年生の生徒も聞き入っていました。ところが、読み聞かせを終えた保護者が、「中学校で読み聞かせが必要なのですか」と強い口調で言われました。話をしてみると、PTAの文化部に入った保護者が読み聞かせをすることになっていることが分かりました。苦手な人が多く、文化部に入るのを嫌がる人が多いとのことでした。さらに、母親が読み聞かせをするのを嫌がる生徒もいることが分かりました。そこで、本年度は「読み聞かせボランティア」を募集することにしました。しかし、現実には厳しくなかなか申し出がありません。そこで、地域の方にまで範囲を広げて、ボランティアを募集しています。

「教員による図書紹介」は、月曜集会の折りに行っていました。どの先生も熱心に話をするので、いつも集会の時間が延び、1時間目に食い込んでしまいました。そのため、本年度、1学期間は中断していました。しかし、せっかくのよい取組なので、昼の放送などを使って復活させたいと考えています。

9月2日、学校図書館部の教育研究大会が本校で行われました。A君のような、読書好き・図書館好きな児童・生徒の育成のために、多くの先生方がたいへん熱心に取り組んでいただいていることを再認識しました。

提案された14本のレポートは、興味深い実践が多く、質問や意見が続出し、協議時間が不足する状態でした。今年度から新たに配置された、図書支援員についても多くの意見が出され、その必要性を確認することができました。たいへん厳しい財政の中ですが、配置校が増えるように働きかけをしていきたいと思えます。

助言者の鈴木先生には、大型テレビを使って、一つ一つのレポートについて丁寧に指導・助言をしていただきました。ユーモアを交えた具体的なお話に、参加者一同時間を忘れて聞き入っていました。

読書は、児童・生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上でたいへん重要なものです。児童・生徒に望ましい読書習慣が身につくよう、学校の教育活動全体を通じて、多様な指導に取り組んでいきたいと思います。

# 授業力・教師力アップセミナー（基礎編）

8月5日（木）に授業力・教師力アップセミナー（基礎編）が「りぶら」で行われ、多数の先生方が参加されました。今回は、岡崎むかし語りの会代表の荒木一枝様と、岡崎子どもの本研究会会員の浅井洋子様を講師としてお招きし、大変充実した内容の研修会となりました。概要は以下の通りです。今後の図書館教育に役立てていけるとよいと思います。

## 【1】岡崎の昔話のストーリーテリング（講師：荒木一枝様）

岡崎の昔話より、「きつねの花嫁（宇頭町）」、「かむろ田（桜井寺町）」、「竜宮（岡町）」の三つの昔話を語っていただきました。ゆっくりと、穏やかな口調で情感豊かに語ってくださり、情景を想像しながらお話の世界に浸ることができました。また、時折会話の部分に織り交ぜられている三河弁が耳に心地よく、親しみをもって聞くことができました。お話を覚え、かつ絵などを用いずに語りのみで子どもたちをお話の世界に引き込むというのは、なかなか骨の折れることと推察しましたが、このように郷土に伝わる昔話を子どもたちに語り継いでいくことは、大変意味のあることであり、地域を愛する心を育てることにもつながっていくと思いました。

また、ストーリーテリングの後に、読み聞かせの時に気をつけたいことも教えていただき、大変参考になりました。

### ★読み聞かせで気をつけたいこと★

- ① 初めによく本を開いておく。（開きぐせをつけておく。）
- ② カバーは外しておく。  
（ただし、カバーに話の内容にかかわるような絵が描かれている場合があるので、事前によく読み、つけるか外すかの判断をするのがよい。）
- ③ 本の下の方を持つ。
- ④ ページの下の方を持ってめくる。（手で絵を隠してしまわないように）
- ⑤ 話の内容に合わせて、めくるタイミングを変えたり、次のページを紙で隠したりするなどの工夫をする。（次の展開に期待をもたせて聞かせたい時などに有効）



※読み聞かせは、情報を伝えるためや理解してもらうためではなく、「子どもたちにお話の世界で楽しんでもらう」というねらいのもとに行うものでありたい。

## 【2】各学年の読み聞かせによい本の紹介と読み聞かせの実演（講師：浅井洋子様）

読み聞かせによい本のリストを資料としていただき、また実際にその本を見せていただきながら、たくさん本を紹介していただきました。特に郷土の絵本や郷土の絵本作家についてのお話は大変興味深く、赤ちゃん向け絵本として広く知られている「いないいないばあ（童心社）」の絵本作家である瀬川康男氏が岡崎出身であることを初めて知って驚きました。他にも岡崎の花火師を取材して作られた「はなびのはなし（福音館書店）」、岡崎市が舞台になっている「ねぎぼうずのあさたろう その6 - みそだまでんごろうのわるだくみ（福音館書店）」も、子どもたちに読み聞かせてやったら興味をもって聞いてくれそうだなと思いました。

また、5年生向けとして紹介された「八方にらみねこ（講談社）」を実際に読み聞かせてくださいました。迫力のある絵と、浅井先生の見事な語り口に引き込まれ、主人公のミケに感情移入しながらお話を楽しむことができました。

## 【3】読み聞かせの実習

9班のグループに分かれ、読み聞かせの実習をしました。自分の知らない本に出会えたり、感想・意見交換の場では、「これはこんな時に読み聞かせてよかったよ」などの今後の指導の参考になる話も聞けたりして、短い時間ながらも楽しく、充実した実習となりました。また、講師の先生方にも各グループを回って直接ご指導いただくことができ、読み聞かせの力量アップにつながるポイントをたくさん教えていただくことができました。

